

ベトナムFW 7/31~8/4 医療班報告

1日目 (旧市街地、寺院等視察)

国際科医療班代表4名 (金柿・葉山・浦野・藤原) はハノイ市にて研修を行いました。



最初にベトナムの空気を吸ったとき、日本にいるより排気ガスのおおいを強く感じました。後で遠くを眺めたとき、日本よりかすんで見えたからやはりそうなのかもしれません。と同時に、目にはバイクの交通量が驚くほどに多い街が目飛び込んできました。そんな街の風景や発展状況は、いつか聞いた日本の高度経済成長のころのイメージとどこか重なるところがありました。私たちは有名な寺院

を訪れました。国民の80パーセントは仏教(大乘仏教)、20パーセントはキリスト教ということで、日本と似たような宗教の構成であることが分かりました。寺院内では帽子や靴を脱ぎ、肩出しや短パンは禁止です。黄金に輝く仏像が数多く並び、お経を唱えている人の姿も見られました。ベトナム人の大多数は仏教ですが、キリスト教信者も少なくなく、街にはお寺のみならず、大聖堂も見られました。

2日目 (国立衛生疫学研究所”NIHE-NU”・保健省・WHO)



本格的な活動の始まりとして、研修中お世話になった長崎大学熱帯医学研究所ベトナム拠点の先生方に、施設見学、講義などをさせていただきました。先生方が活動の基点とされているNIHEは、途上国とは思えないほど高性能の設備ばかりであり、そこがベトナムの健康を増進する中心地となっていることがありありと感じられました。また、竹村先生に細菌学・ウイルス学研究所の講義をいただき、現地での活動や、最新の研究について深い理解を得ることができました。保健省では元厚生労働省勤務の牛尾さんからベトナムの医療事情についてのお話をいただきました。ベトナムでは、病院が階層的に分かれており、病状に合わせてより高度な病院にかかるという仕組みでした。しかし今では、最も市民に身近な病院であるコミュニンの信頼が低下し、経済力のある人々が大きな病院に集中するという状況です。また、抗生物質が薬局で買えたり、医師になるための国家試験がなかったりと日本とは異なる点をたくさん学ぶことができました。発展途上国ということで、私たちの感覚では衛生状態が良くないと感じてしまうことが多かったのですが、それは急激に都市化し人口が集中することで、都市環境が悪化したとい



う側面もあるようでした。先生は「いろいろな国に行け」「自分の専門以外の分野の本を読み」「恋愛をしろ」「英語くらいは話せるようになれ」という四つのことを私たち若者に実践してほしいとおっしゃっていました。



WHOでは、私たちのSGHの研究テーマのひとつであるタバコについての講義を英語で聞くことができました。たばこは、生活習慣病のひとつであることから、他の生活習慣病についても話を聞くことができました。NCDsという概念を知り、WHOが定める適切な食品の摂取量、一日に必要な運動量などこれから自立していく上で必要な様々な値を知ることができました。さらに、自分たちが知る日本のBMIの基準は、WHOのものとは異なることを聞き、驚きました。タバコに関しては、自分たちで日本と世界のタバコへの意識の違いを調べるために作成したアンケートを実施しました。ネットでは知ることができない社会の仕組みや、人、環境の特徴が分かりとても勉強になりました。

3日目（竹村先生によるNam Dinh省野外研修）

NIHEの野外調査に同行し、ハノイから約2時間半かけてNam Dinh（ナムディン）省へ行き、川の水の採集見学や診療所訪問をしました。ナムディンは都市部のハノイとは正反対で田んぼや樹木が多く、研究所の竹村先生がここでは食べ物はおそらく7~8割方自給自足であるとおっしゃったような農村部地域でした。水は緑色に濁っておりゴミが少し浮いていて見た目はあまりきれいではありませんでしたが、仕掛けてあった網には小さな魚が掛かっていたため、生き物が全く棲めないというわけではなさそうに思いました。診療所はともちんまりとした印象をうけました。訪問した病院は診察室も含めてすべて開放的な空間で虫が入ってきていて、空調設備が見られなかったのも違いだと感じました。私たちはそれぞれの班の研究に必要なアンケートも可能な範囲で行い現地の実態なども調査できた有意義な研修となりました。



4日目（ホーチミン廟等視察・”NIHE-NU” ・水上人形劇鑑賞）



午前中にホーチミン廟へ行きました。

そこは、ベトナムの民族解放と独立のために南北統一に生涯をかけたホーチミンの亡骸が眠る場所です。ガイドさんの話から、ホーチミンはベトナム人に愛され、尊敬されているベトナムで最も偉大な人物の一人であると分かりました。

午後から再びNIHEへ戻り講義を受けたり研究室を見学したりし、最後にベトナム研修についてのプレゼンを行いました。角田先生にいただいた病気を媒介する蚊についての講義では、多くの種類の蚊とその個々の習性について教えていただきました。また、現状や対策などについても知ることができ、蚊が媒介する病気について、様々な視点から理解を深めることができました。研修のプレゼンでは、私たちのベトナムでの些細な気づきなどにも評価、アドバイスをいただき、今後の研究についてのヒントをいただくことができました。長崎大学の

皆さん、ありがとうございました。

夜に、ベトナムの伝統的な水上人形劇を鑑賞しました。劇場は多くの外国人観光客で大変にぎわっていました。ベトナム語が全く分からなくても、伝統楽器の音色や美しい舞などを大いに楽しむことができました。

3泊5日の研修は、日本では味わえない刺激を多く受け、充実したものとなりました。医療班ですが、医療分野だけではなく、ベトナムの国民性や貧困や水環境などのほかの分野にも触れることができたことを生かして、研究に新しい視点を取り入れていけたらいいと思います。



